

求められる学長像

I 高等教育を取りまく背景と大学の理念等

1. 経済社会の変化

第4次産業革命といわれる、技術を起点とする変化（シーズ側）や、社会的課題（ニーズ側）など、経済社会を取りまく環境は急速に変化している。こうした状況は、前例のない経済社会の変化を生みつつあるとともに、国際共通で生じている点に特徴がある。

2. 大学を取りまく環境の変化

経済社会の変化のもとで持続的な発展が必要とされるなか、政府・産業界・教育機関などの各セクタには、それぞれの役割を通じた寄与が求められている。その対応の成否が各組織の存続を決める時代になっている。

そのなかで、特に大学には、知の創出（研究）、人材の育成（教育）、国際交流等の点で、他にはない重要な役割が求められている。

ただし、大学の経営を取りまく環境は、外的には、就学人口の減少、政府の支援の選別的運用、競争の激化、これらを受けた大学間の連携や統合の動きがあり、大学自体の経営資源は制約のもとにある。

3. 本学の理念

本学の理念は、「知の創造、継承、発展に努め、知的、道徳的及び応用的能力を備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献する」である。これまで、旧制第五高等学校や熊本医科大学等を母体として130年に及ぶ歴史をもち、九州における中核的総合大学として、地域社会や国際社会と緊密につながりつつ、高度なレベルで教育・研究・社会貢献に取り組んできた。

4. 本学に今後求められる大学運営の方向性

高等教育を取り巻くこのような環境の中において、本学には次のような大学運営が求められている。

- (1) 経済社会の変化に対応しつつ、本学の理念の実現と持続的な発展を実現すること
- (2) 環境対応の難度が増し、時間の限られる中で適切に判断して結果を得るため、適切なビジョンを掲げるとともにそれを実現に移すこと
- (3) 学内の運営を不断に革新するとともに、学外と連携を行う等の戦略的に対応すること

Ⅱ 熊本大学の学長に求められる基本的要件と基本的姿勢

1. 基本的要件

- (1) 大学を代表するとともに、最高責任者として経営の責を負うこと
- (2) 大学の理念を実現する高い識見、組織運営に関する指揮統制を取ること
- (3) 経営の責任者として、変化した経済社会における大学運営をめぐる結果を得ること
- (4) 教育、研究、社会的活動等において、国内外で高い業績を持ち評価を得ている人物であること
- (5) 本学の各部局における教育研究及び全学的視点での教育研究を理解している人物であること

2. 経営の責任者として求められる基本的姿勢

- (1) 本学の内外を取りまく環境への認識と、課題に対する問題意識を十分有していること
- (2) 組織体としての本学の持続と発展に対する確固たる考え方を有していること
- (3) 過去の大学運営を検証し、継続、改変等を行う姿勢を有していること